

2014年10月23日

南関東防衛局

局長 丸井 博 様

神奈川平和運動センター

代表 福田 護

厚木基地爆音防止期成同盟

委員長 大波 修二

第四次厚木爆音訴訟団

団長 藤田 榮治

原子力空母の母港化に反対し基地のない神奈川をめざす県央共闘会議

代表 二見 昇

三浦半島地区労働組合センター

議長 佐藤 治

非核市民宣言運動ヨコスカ

横須賀原子力空母母港問題を考える市民の会

共同代表 呉東 正彦

オスプレイの横須賀基地・厚木基地への飛来中止を
米軍司令部に求めることを申し入れます。

またしてもオスプレイの飛来情報が伝えられたことに、驚き、怒りとともに不信感を覚えています。わたしたちが、オスプレイの厚木基地飛来の中止を求めて貴職に申し入れたのはつい6日前の10月17日です。しかも、それが初めてではなく、たとえば前月9月にも10日、24日と同様の申し入れを行っております。また、県、周辺市は、再三にわたり、防衛省、基地司令官などに遺憾のコメントや再飛来をしないよう発言を繰り返していることはよく承知されていると思います。

申し入れの折、貴職からの回答について、わたしたちはひとつひとつに反論しています。安全性に信頼が得られないこと、飛行に関する合意が守られていないこと、飛行時間もルートも明らかになっていないことなどです。貴職は本省に伝えると回答しましたが、ただ事務的に書類をあげているだけではないかという危惧もその折に指摘したかと思います。どうも、それが危惧ではなかったようです。国民を守ることが第一の任務である防衛省が、住民の不安に接しながら、それを真剣に受け止めようとしないとなれば、職務を放棄していると言われても反論はできないのではないのでしょうか。

ところで、南関東防衛局のホームページによれば、今回の飛来の理由は、「横須賀海軍施設の状況を把握するため」ということですが、すでにそのような情報は海兵隊に伝えられているはずで、今更飛来して把握する必要は無いことは明らかです。まして、沖縄の海兵隊が横須賀基地を使用する機会は今までにはなかったはずですから、わざわざ調査するということはそれ相当の理由がなければなりません。部隊の配置や装備の変更に関わることであれば、それなりの手順を踏まねばならないことは貴職も十分承知されていると思います。その点を十分調査し、無用な運用をさせないことが、地方防衛局の職務ではないでしょうか。

さらに、今回の通告には腑に落ちない点があります。今まで、飛来通告は南関東防衛局から発せられ神奈川県などを通じて周知されてきました。しかし、今回は、直接防衛省から横須賀市に通告が入ったと聞いております。これは何を意味するのでしょうか。基地あるいは自治体によって情報の遅れや濃淡があることが問題になっています。在日米海軍司令官の、今後情報開示をしないという発言もわたしたちは問題にしました。今回の経過についても納得のいく説明をお願いしたいと思います。

このように今回のオスプレイの飛来は、従来から抱えている安全性の他に飛来の理由など不明な点が多く、住民が納得するものではありません。貴職におかれては、もう一度その点を問い合わせ、住民に納得のいく回答が得られるまで、飛来を見合わせることを米軍に求めるよう強く申し入れます。